

第3号

# 南栗遺跡 発掘たより

2022年12月9日発行

5月23日(月)に開始した南栗遺跡の発掘調査は6ヶ月がたちました。酷暑を乗り越えての調査はすでに過去のものとなり、今は雪化粧した北アルプスを眺めての調査を行っています。山を覆う雪は、日を追うごとに広がり、遺跡に雪が舞うのも時間の問題となりました。36年前に行った長野自動車道建設に伴う発掘調査が想起されます。

今回の発掘たよりでは、3基発見された平安時代の木棺墓<sup>もっかんぼ</sup>を紹介します。



雪が被った北アルプス  
(左下は南栗遺跡プレハブ)

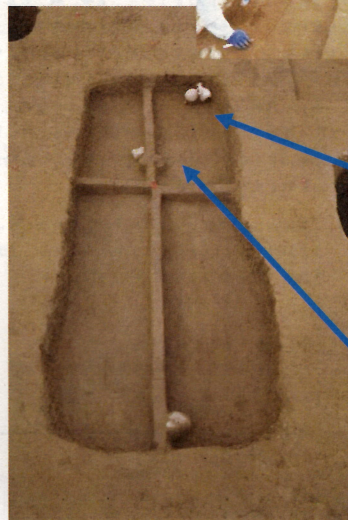


長野自動車道建設に伴う南栗遺跡の発掘調査  
(1985年12月：河西克造 撮影)

## ◆ 平安時代の木棺墓発見

木棺墓の形状は長方形で、長辺2m、短辺0.8mの規模です。3基(SK02・11・12)とも長辺が南北方向で、木棺の木質部は残っていませんでしたが、土の色の違いから、木棺の範囲が確認されました。木棺内から歯が出土し、その位置から北に頭部を置き埋葬されたことがわかりました。SK02とSK11では、完全な形をした土器がまとまって出土しました。

SK11では、<sup>かいゆうとうき</sup>灰釉陶器の<sup>しょうへい</sup>小瓶



SK11 全景  
(写真上が北)



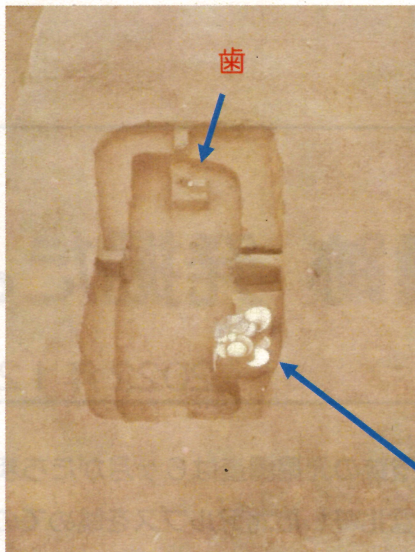
小瓶の出土状況



歯の出土状況

、SK02 では灰釉陶器の皿、碗、内黒土器の坏がまとまって出土しました。埋葬時に副葬したものと思われます。木棺墓の時期は、出土した土器から 10 世紀に比定されます。なお、SK12 では完形の土器が出土しませんでした。下顎の歯が残っていました。

発見された木棺墓の時期から、奈良・平安時代に展開した南栗遺跡の集落が 10 世紀頃に減少し、葬地になっていく様子がわかってきました。



SK02 全景 (写真上が北)



調査風景

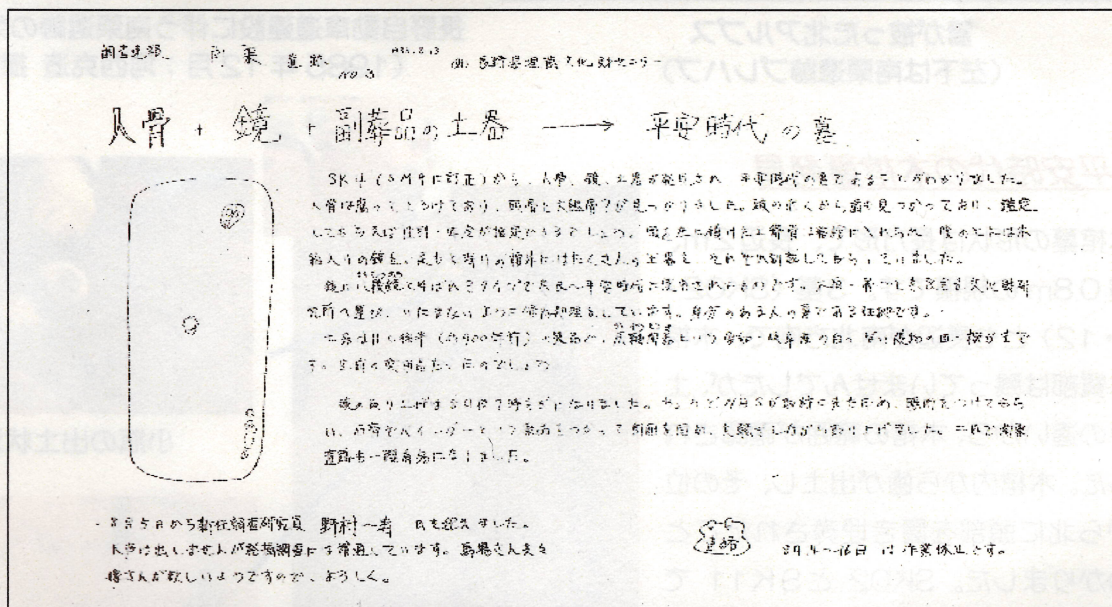


土器出土状況

### ◆ 埋文センター発掘今昔

長野県埋蔵文化財センターで行う発掘調査では、「発掘たより」の発行などを行い、発掘成果を関係機関や地元（地域）の方に伝える情報発信を行っています。

今回の調査では、写真や多色刷りの図・表を掲載し、パソコン上で編集したオールカラー版の「発掘たより」を発行していますが、1985・86 年の長野自動車道建設に伴う南栗遺跡の発掘では、手書きで輪転機を使って印刷したモノクロ版の「調査速報」(下、B4 判)を発行していました。発掘成果を情報発信するという目的は同じですが、新しい器機の登場などにより、「発掘たより」(調査速報)は手書きモノクロから現在の姿と変わってきています。



1986 年 8 月に発行した「調査速報」  
(鏡が出土した平安時代の墓を紹介)

長野県埋蔵文化財センター 南栗遺跡班  
担当：河西克造/平林 彰/大竹憲昭  
携帯：070-4132-8528  
メール：maibun@naganobunka.or.jp  
HP：https://naganomaibun.or.jp